

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600495		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム あすなろ Iユニット		
所在地	苫小牧市字樽前237番地1		
自己評価作成日	平成24年9月26日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境(四季の草花、野生動物) 平屋作りのためユニット間の行き来がしやすく、交流をはかりやすい 家族の参加できる行事計画もあり、温かく穏やかに生活されています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600495-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年10月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は「四季折々の自然との語り、心との出会い、人と自然とのふれあいを大切に」との信条のもとに、平成14年1月に母体法人の医療と福祉のネットワーク内の1事業所として2ユニットで開設された。また、近隣に母体法人の医療機関があり、連携が取れていることで利用者・家族の安心につながっている。共用空間の居間は天井が高く開放的で、屋外にはペットを飼い癒しを与えている。職員は、認知症の方が家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの生活を大切に、認知症の症状の進行を緩和させ、穏やかに安心出来る生活を送る事が出来るよう常に意識して支援している。事業計画に沿った母体法人との研修計画、又独自の研修企画も立案実行し安心して過ごせる「あすなろ」を目指しており、職員のスキルアップに特に力を入れている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念やケア理念、介護の心得を掲示していつでも確認できるようにしている。	一人ひとりの気持ちを尊重し「その人らしく穏やかにご近所の人と楽しく安心して過ごせるあすなる」を理念に、スタッフルーム、ユニットごとに掲示し、朝のミーティング時、勤務に入る前には読み上げて理念の共有に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	住宅が近くにないが、樽前小学校や町内会との関わりをもっている。 (運動会参加、文化祭への出展など)	樽前地区運動会に参加し、学芸会を見物したり文化祭へは作品を出品している。手芸、染物を作り、展示には町内会担当者が搬入・搬出の手伝いで来所している。樽前みこしが事業所を訪問し、相互交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学校実習生の受け入れを行っている。ホーム長は、認知症への理解などの講演をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、行っている。そこであがった意見の反映に努めている。	運営推進会議は定例化され、入居者の状態などの報告、日々の活動内容報告、意見交換を行い、その中から運動不足を補う音楽レク、ホテル観賞会の実施など利用者のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで、町内会や地域包括支援センター、市の介護保険課と情報交換をしている。	市の介護保険課との情報交換に努め、グループホーム連絡会日胆ブロックの研修に参加して連携を深めている。キャラバンメイト、キッズサポーター養成講座などの取り組みを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修・勉強会を受け、スタッフ間で情報の共有や理解に努めている。	身体拘束委員会を年2回開催している。半年に1回の母体法人による研修に参加し、伝達講習を行っている。夜間時は防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受け、スタッフ間で確認し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の相談があったときは対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長より行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望は面会時や玄関に御意見箱を設置して伺うようにし、反映に努めている。	意見・要望が表出し易い雰囲気作りに努めている。利用者の意見・要望をはじめ、家族からは面会時に聴取するほか、行事毎にアンケートに記入いただき、意見は事業所運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃も意見交換を行っている。スタッフ会議には、さらに深く話し合いする機会をつくっている。	日常における意見の交換をはじめ、月1回のスタッフ会議、ユニット毎のモニタリング、カンファレンス時など機会を捉えた話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幼い子どもがいるスタッフにも、働きやすい環境や時間を調整してもらい、他のスタッフの協力ももらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修があり、その研修を経てステップアップする仕組みがある(キャリアパス研修)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会や苫小牧のグループホーム連絡会にて情報交換や交流の場をもっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に本人又は家族、関係施設などから情報を頂いている。本人の面談も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望・相談を伺い、ここでの生活で対応のできる範囲も家族に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いをもとに、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることや好きなことを一緒にしたり見守りをし、共感し合い、やりがいに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の日頃の様子を伝え、時に家族の思いや心配などを聴いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出向いていくことが難しいが、本人の行きたい所や会いたい人があることを家族へ伝え、いつでも面会に来られるように努めている。	会いたい人の来訪希望を家族に伝える橋渡しを行い、面会にこぎつけたり、行きたい所を家族に伝え、通夜・告別式に出席するなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事・音楽レクなどで、関わりがもてるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居になっていても、お見舞いをかねて会いに行くことをしている。行事を開いて下さる家族もあり、交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望は記録に書きとめるようにし、スタッフへも伝え検討している。	利用契約時に本人・家族から情報収集に努めている。センター方式を利用し、一人ひとりに合わせた対応により、思いや意向を把握して記録に残し支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や前施設より情報をもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートにて日々の過ごし方を記録し、把握に努めている。必要に応じて他シートも使用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングのシートを利用し、カンファレンスにて検討。ご本人又は家族にも要望を聴き、ケアプランに反映させている。	カンファレンスは月一回行い、3ヶ月に一回利用者全員分のモニタリングシートを作成し、職員全員で記入したものを担当者会議で評価している。利用者・家族の要望を取り入れて次のケアプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートに記録し、カンファレンスなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が難しい場合、スタッフが対応することあり(病院受診など)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設や機関の協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が近くにあるが、他医療機関を希望する場合は柔軟な対応・支援をしている。	かかりつけ医への受診は家族対応で行っているが、母体の協力医療機関へは事業所に対応支援している。皮膚科は往診が行われており適切な支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長(看護師)に相談し、必要に応じて医療機関への受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の混乱が少しでもないように、介護添書を利用し、他機関への情報交換に努めている。入院中、お見舞いへも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態変化が重くなる前に、その可能性があることを家族へ伝えるようにしている。 (面談したり、医療機関との連携により話し合い時には同席している)	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針の説明を契約時に行い認識を共有している。利用者の状態変化に合わせて、医療機関との連携の下話し合いを持ち、出来る範囲の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などの手順についてスタッフに伝えている(急変時対応マニュアルを設置している)。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や避難訓練を行っている(夜間想定時も実施)。	9月に母体法人と合同の防災、防火訓練を実施している。10月23日には夜間想定訓練を行っている。	訓練の為に訓練ではなく、実際に沿った、実践模擬訓練を利用者、地域を巻きこんで実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった対応を心がけている。プライバシーでは、他者の記録にはイニシャルで表記している。	話したいことは遮らず、プライバシーを損ねない声掛けを心掛けるなど、利用者に合った対応を行い、記録はイニシャルで表記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の希望に沿えるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の忙しさで入居者に待ってもらうことが多いが、希望に沿えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人になじんだ整容を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の香りを感じたり、食事中は落ちついたCDをかけ、食事を楽しめるようにしている。片づけのできる方には台所での居場所づくりもしている。	普段の会話の中から希望を取り入れた週単位の献立表を作り、摂食、嚥下障害表を4か月に1回評価して、状態に合った自助具などを利用しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態や代替を行っている(栄養補助食品の利用)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時に、一人一人に合った支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントシートを使用し排泄のパターンを知り、できるだけ失敗のないようトイレへ誘っている。	日々のアセスメント記録による排泄パターンを把握している。利用者による信号を的確に判断し、さりげない誘導によりトイレでの自立排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫(乳製品・根菜類の提供)や腹部マッサージなどを行い、それでも排便がない時は下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当ホームでは温泉を使用しており、温泉の声かけで入浴の意欲につながることもある。本人にあった湯の温度も心がけている。	週2回以上を目途として、午後から利用者に合わせた温度の天然温泉を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日にあった落ちついて過ごせる場を見つけるよう心がけている。安眠につながるよう日中の過ごし方を考え、心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録のファイルに処方せんをつけてすぐに確認し、変化時は特記事項へ記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にできる家事作業などで役割がもてるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や散歩をかねて周辺へ出かける方がおり、できるだけ本人の希望に沿えるよう心がけている。	買物、ドライブ、散歩、季節の行事に合わせた外出、家族とのお墓参りなど利用者の希望を出来るだけ取り入れた支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望もあり、お金の管理ができる方には持つて頂いている。売店へ買い物に行っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかけたい時には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかり易いトイレ表示や、居間や居間に温湿度計を設置しその都度チェックし、調整を行っている。	ユニット毎の利用者に合わせて長椅子などを配置している。キッチンを囲むようにカウンターがあり、思い思いの処で寛いでいる。外には猫、犬が飼われ、エサやりを行い、動物のしぐさが癒しの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間と、椅子やソファを多く設置しているため、気分に合った居場所づくりを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や本人に合った家具を持ってきて頂いている。仏壇を置かれている方もいる。好きな写真も飾って頂いている。	利用者と家族が持ち込んだ家具と馴染みの品々を配置している。洗面台も使い良く、壁には写真を飾ったりして、居心地の良い居室作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居間には手すりが設置されており、歩行不安定な方でも安心して安全に過ごせるように工夫されている。		